

そこで私たちはその不安定で気まぐれな自然エネルギーを「水素」という形で貯え、必要な時に必要な量だけ供給し電気エネルギーと熱エネルギーに転換しようと考えています。それが可能になれば来るべき「水素社会」において稚内が果たす役割はたいへん大きなものになるでしょう。新しいエネルギー産業を起こして雇用の場を作りだし、「新エネルギー最先端都市・稚内」に優秀な人材や視察者など交流人口を増やすことに繋げようというものです。

そのほか、研究会では風力と太陽光そして水素エネルギーだけでなく、雪の冷熱を利用した「雪氷エネルギープロジェクト」や無立木地が多い稚内に森林を増やすための「北のてっぺん緑化プロジェクト」を大規模に実施しています。

今や稚内は新エネルギーのメッカであり世界に誇れる最先端のクリーンエネルギー都市なのです。

稚内から北海道洞爺湖サミットへ 太陽光のクリーン電力を送る！

本年七月七日から三日間、「北海道洞爺湖サミット」が開催されることになってい

ます。各国の首脳が一同に会し、とりわけ地球温暖化防止に向けて「京都議定書」の国際的な枠組みづくりを行いそれぞれの国が批准することになるでしょう。

北海道で開催されるこのサミットは新エネルギーに取り組む稚内をアピールする絶好の機会であり、私たちから北海道経済産業局に一つの提案を出させていただきまし。それは現在、建設中の大規模太陽光発電施設です。すでに発電を行っている電力を、グリーン電力という形でサミット会場のザ・ウインザーホテル洞爺に供給しようというものです。

幸運にも北海道経済産業局の賛同を得ることができ、速いスピードで経済産業省を通じて外務省の承諾を取り付けるにいたりまし。これを機に稚内というまちを国内だけでなく世界に大きくアピールしたいものです。

新エネルギーが果たすもの

稚内には広大で安価な土地があり、風その他にも波力、バイオマス（家畜糞尿、山林、雪氷冷熱等）、太陽光（熱）などの自然エネル

最後に

新エネルギー研究会の活動は、地球という美しい星が人類に残してくれた宝物である化石燃料を、できるだけ長く次の世代に引き継ぐためにクリーンエネルギーの利活用を進めることです。それは稚内にとどまらず、北海道全体が新たなエネルギー供給システムの先進モデル地域になることができるはず。これこそが来るべき未来社会における「北海道の目指すべき姿」ではないでしょうか。

新エネルギー研究会ではこのプロジェクトを「ハイドロジェン・アイランド構想」（水素利用の島）と名付け今後の活動を積極的に進める予定です。

新エネルギーを推進するための真のエネルギーは市民の力です。新エネルギー研究会が活動する陰には様々な人たちの協力があります。「環境省のまほろば事業」や「NEDOの大規模太陽光発電の実証研究」、「雪氷冷熱プロジェクト」、「北のてっぺん緑化プロジェクト」などそれらの事業の採択と推進には情熱と熱意を持った人たちの行動力と魂が宿っていました。それが

なければ何事も成就させることは出来なかったでしょう。まちづくりに思いを寄せる皆さんの熱い情熱で稚内を再生することができれば、「稚内新エネルギー研究会」を設立した意義があると思います。まことに手前味噌になりますが、私がいへん気に入っている私の会社の「社是」の一節をご紹介します。

「おはようー」

子供たちの声、大人たちの声。

ひとりひとりの元気が輝く。輝きと喜びの夜明け。

幸せのあいさつをみんなでかわしあう。豊かな心を奏でることば、人にやさしさ、あたたかさを感じさせ互いの幸せを願う。

夢と希望の星の光を見つけ、夢をかたち、希望をかなえるわれらの望み。人の喜びを自分の喜びとして、笑顔と感動をもち、誇れる仲間とともに生きよう。

ひとりひとりのこころを燃やし、笑顔あふれる幸せな未来にチャレンジ！

ギーが豊富に存在しており、エネルギー研究や開発の最適地です。また稚内北星学園大学と連携してその技術や情報を世界へと情報発信することも可能です。それが世界中から視察者を呼び込み、さらには優秀な人材確保に繋がる可能性がります。人が集まり交流するためには空港を国際化し、北海道各地をつなぐ路線も必要になるはず。さらにはサハリンとの交流も環境・エネルギーを通してさらに活発化させることも可能です。そうすれば港は大型タンカーが停泊できるための施設が、高速道路は最北の街にまで必要になるでしょう。まさに新エネルギー産業という新産業が稚内市に生まれる可能性もあり、稚内の観光産業に付加価値をつけた新たな「環境観光産業」を根付かせることができると思います。

これらの構想を実現するためには「地球環境を考える市民のまち」、「新エネルギー最先端都市のまちづくり」など、明確なビジョンを策定し、まちのあるべき姿を市民一人ひとりが共有し、その達成に向けて一人ひとりが汗を流すことではないでしょうか。

追記

「稚内新エネルギー研究会」事務局の南野君がこの春から北海道教職員として再び教壇に立つことになりました。今まで研究会の事業推進に多大なご努力をいただいたことに深く感謝しながら、これからの活躍に期待しましょう。

南野君 どうもありがとう！

稚内でのこと

事務局 南野 浩利
組立式自転車とキャンプ道具とともに

「急行天北」から稚内駅のホームに降り立ったのは、二十四年前、大学三年の夏でした。稚内にはまだ、映画館も、ロープウェイも「こどもの国」もありまし。そのときの印象が良く、二度も舞い戻り、学生四年、社会人四年、計八年稚内で過ごしました。

長谷川会長から「稚内新エネルギー研究会を立ち上げるので手伝って欲しい」と請われ、事務局として三年間、皆さんと様々なプロジェクトに携わることができたのは、本当に貴重な経験でした。最後まで見届けずに稚内を離れるのは残念ですが、「新エネルギー最先端都市稚内」の実現に向けた皆様のご健闘と稚内の発展をお祈りいたします。ありがとうございました。